サポート情報記事

ポリシーの最初のバージョンを公開する方法

2026 © Vitextra SIA. 無断転載を禁じます。

免責事項

本免責事項の適用上、次のとおり定義します。

- **会社** (本免責事項では「当社」と表記します) とは、Vitextra SIA (Matīsa iela 61-25, Rīga, LV-1009, Latvia) を指します。
- **本ドキュメント**とは、ナレッジベースの記事を指します。
- **お客様**とは、本ドキュメントにアクセスする個人、または該当する場合は、その個人が本ドキュメントにアクセスまたは使用する際に代理となっている会社その他の法人を指します。
- **本 Web サイト**とは、https://vitextra.com からアクセスできる Vitextra を指します。

免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、一般的な情報提供のみを目的としています。

当社は、本ドキュメントの内容における誤りや脱漏について、一切責任を負いません。

いかなる場合も、契約上の訴訟、過失、その他の不法行為上の訴訟であるかを問わず、本ドキュメントの内容の使用に起因または関連して生じる、特別損害、直接損害、間接損害、結果的損害、付随的損害、またはその他一切の損害について、当社は責任を負いません。当社は、事前の通知なく、いつでも本ドキュメントの内容に追加、削除、または変更を行う権利を留保します。

誤りおよび脱漏に関する免責事項

本ドキュメントに記載されている情報は、関心のある事項に関する一般的な指針を示すことのみを目的としています。そのため、本ドキュメントの内容を最新かつ正確に保つために当社があらゆる予防措置を講じている場合でも、誤りが生じる可能性があります。また、法律、規則、規制は変化するため、本ドキュメントに記載されている情報に遅れ、脱漏、または不正確な点が含まれる場合があります。

当社は、誤りや脱漏、またはこの情報の使用によって得られた結果について、責任を負いません。

フェアユースに関する免責事項

当社は、著作権者から明示的な許可を得ていない著作物を使用する場合があります。当社は、批評、論評、ニュース報道、教育、学術研究、または調査の目的で、そのような資料を提供しています。

当社は、これが、米国著作権法第 107 条に規定されている、当該著作物の「フェアユース」にあたると考えています。

お客様が、フェアユースの範囲を超えて、ご自身の目的で本ドキュメントの著作物を使用することを希望される場合は、著作権者から許可を得る必要があります。

「自己責任での使用」に関する免責事項

本ドキュメントのすべての情報は、完全性、正確性、適時性、またはこの情報の使用によって得られる結果について何ら保証することなく、また、性能、商品性、特定目的への適合性に関する保証を含むがこれらに限定されない、明示または黙示を問わずいかなる種類の保証もなく、「現状のまま」提供されます。

当社は、本ドキュメントに記載されている情報に依拠して行われた判断や措置、または結果的損害、特別損害、もしくはこれらに類する損害について、たとえそのような損害の可能性について知らされていた場合でも、お客様またはその他の者に対して責任を負いません。

お問い合わせ

本免責事項についてご不明な点がある場合は、メール (support@vitextra.com) でお問い合わせください。

目次

公開パネルを開く 4

公開して結果を確認する 4

公開前のレビューを完了する 5

公開を複数の関連する結果として確認する 5

不確かな公開結果から復旧する 6

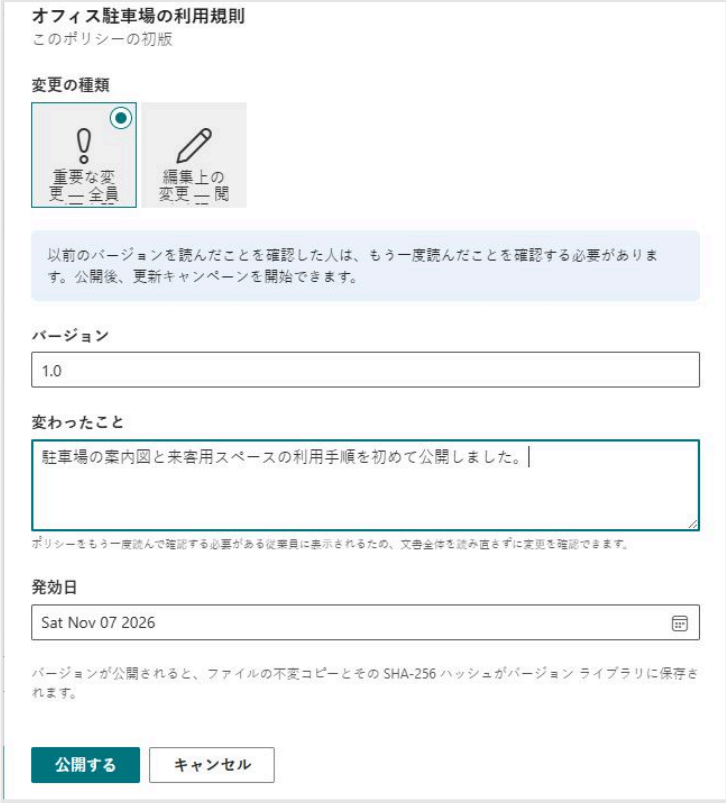
公開したバージョンを割り当てる 7

公開するとポリシーのバージョンが作成され、ポリシーが公開済みの状態になります。開始前にカードを作成し、ソースURLを確認して、公開担当者と想定する閲覧者が内容にアクセスできることを確認してください。KB10501. Policy Acknowledgementでポリシーを作成・編集する方法を参照してください。

公開パネルを開く

1 ポリシーを管理できる管理者、コンプライアンス管理者、または作成者のアカウントでPolicy Managerを開きます。
2 状態フィルターで**下書き**または**すべてのステータス**を選択し、ポリシーを選択します。
3 **新しいバージョンを公開する**を選択します。
4 **変更の種類**と**バージョン**を確認します。最初に提案されるバージョンは`1.0`です。
5 **変わったこと**に初回リリースの説明を入力し、**発効日**を確認します。

初回リリースでは既存バージョンの変更概要は必須ではありませんが、内容の分かる説明は閲覧者やレビュー担当者がリリースを識別する助けになります。



バージョン1.0の公開

公開して結果を確認する

公開するを選択し、完了の通知を待ちます。ポリシーに現在のバージョンが設定され、公開済みになったことを確認します。バージョン履歴と、保存されたドキュメントのスナップショットがあればそれも確認してください。

ハブと同じSharePointオリジンのドキュメントでは、公開時にソースを読み取り、SHA-256フィンガープリントを計算し、`PolicyVersions`にファイルのスナップショットを保存します。SharePointページのソースはファイルとしてハッシュ化されますが、同じドキュメントスナップショットは作成されません。外部URLのソースには、コンテンツのフィンガープリントもドキュメントスナップショットもありません。

警告

発効日はポリシー情報として保存されます。この公開操作はポリシーを直ちに公開済みにします。将来の発効日は、公開を予約する仕組みではありません。将来の日付を選べばその日までポリシーが非表示になるとは考えないでください。

公開前のレビューを完了する

初回公開は、未完成の下書きを見せる手段ではなく、保守されるポリシーのリリースとして扱います。ソースを再度開き、所有者を確認し、従業員が受け取る確認文を読みます。タイトルと説明が目的の資料を特定し、選択したソースがこのリリースの最終文書であることを確認します。

公開担当者と代表的な従業員の両方でアクセスを検証します。公開担当者はファイルを読み取りコピーできても、従業員は原本へのアクセスを拒否される場合があります。Policy Readerは設定されたソースを表示するため、スナップショットの成功だけでは従業員の利用体験が機能する証拠になりません。

まだ利用可能にすべきでないポリシーは、公開準備が整うまで下書きのままにします。将来の発効日はポリシーを説明するもので、表示を遮断する仕組みではありません。同様に、カードが下書きでもソース文書はライブラリから独立してアクセスできる場合があります。意図するリリース手順に従ってコンテンツ自身のアクセスを管理します。

公開を複数の関連する結果として確認する

確認する結果	確定すること
カードの公開済み状態	カードの状態変更が完了したこと。
現在のバージョン値	新しいキャンペーン選択に使うリリースをポリシーが識別すること。
バージョン履歴項目	リリースの詳細と変更説明が記録されたこと。
対応文書のスナップショットリンク	保持されたファイルを別途確認できること。
従業員のソースプレビュー	想定する読者が設定された内容を開けること。

ソースの種類に応じた結果を確認します。ページや外部ソースのメタデータレコードは、完全な文書スナップショットと同等ではありません。メタデータのみのバージョンをすべて公開失敗と判断せず、Webサイトの完全なアーカイブとも説明しないでください。KB10512.　ポリシーのコンテンツソース：文書、SharePointページ、外部URLのソース比較で違いを説明しています。

不確かな公開結果から復旧する

エラーが表示されたら、まずポリシーと履歴を再読み込みします。操作はコンテンツ証跡の計算、バージョンデータの作成、ポリシー更新、監査イベント書き込みを別々のステップで行います。後のステップが失敗しても、先の結果が残る場合があります。確認せず公開を繰り返すと、リリース履歴を解釈しにくくなることがあります。

ポリシー識別子、予定したバージョン、エラー、時刻を記録します。バージョンがすでに存在するか、スナップショットが作成されたかを確認します。最初のクリックでエラーが報告されたというだけでバージョン番号を再使用しないでください。ファイル作成では上書きが可能なので、同じ番号は独立した証跡を残すための安全な再試行方法ではありません。

結果を理解したら、試験用割り当てで完成したリリースを検証します。公開は配布するバージョンを作成し、次の節のキャンペーンが従業員の作業を作成します。公開済みカードを展開完了と誤解しないよう、これらの確認点を分けてくだ

さい。

公開したバージョンを割り当てる

最初のバージョンを公開しても、キャンペーンや従業員の割り当ては作成されません。**新しいキャンペーン**を選択し、公開済みポリシーを選んで対象者を設定し、KB10503. Policy Acknowledgementのキャンペーンを作成・開始する方法に従ってキャンペーンを開始します。

パイロットの従業員で結果を検証します。閲覧画面はソースコンテンツを表示します。古い割り当てを開くと、そのアーカイブ済みファイルのスナップショットが自動表示されるとは想定しないでください。保存されたドキュメントバージョンを確認する必要がある場合は、バージョン履歴のスナップショット専用リンクを使用してください。